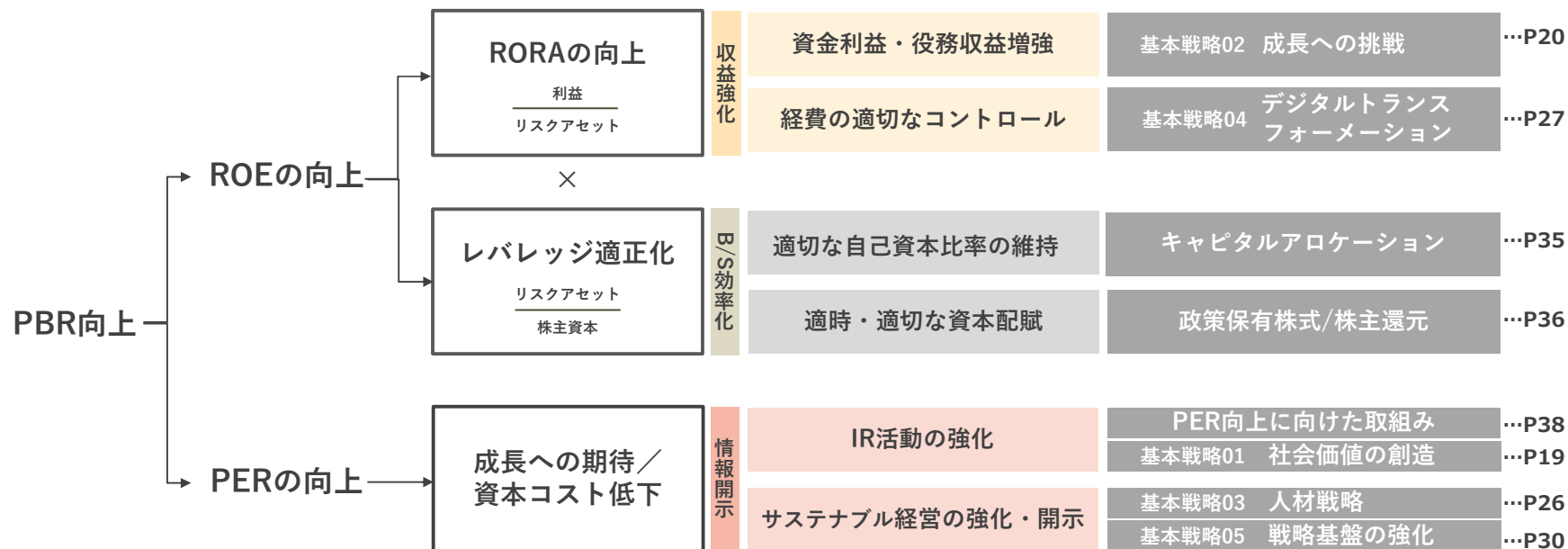


企業価値向上へ向けた取組み

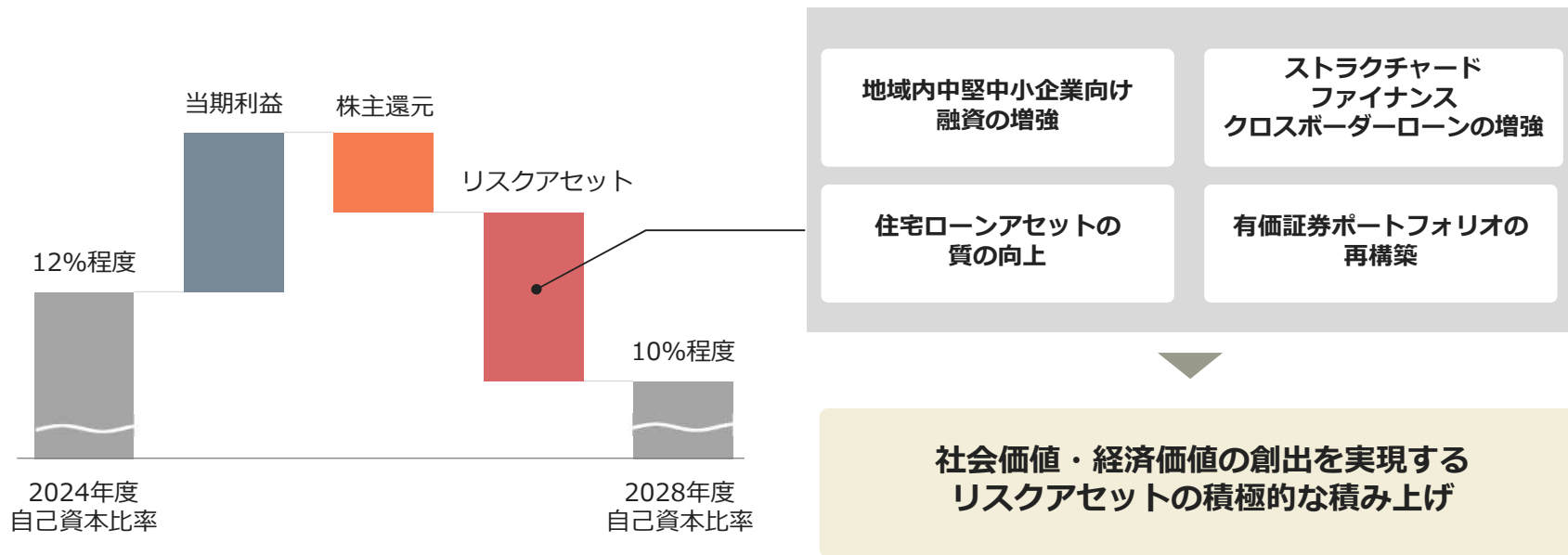
中期経営計画「未来への挑戦」で各種施策に取り組むことを通じて、企業価値の向上をめざす

PBR向上ロジックツリー



資金・資本の両面で「効率的なアセットアロケーション」を実現することで、健全性を保ちながら収益性を高め、経営資源を有効に活用する

キャピタルアロケーション

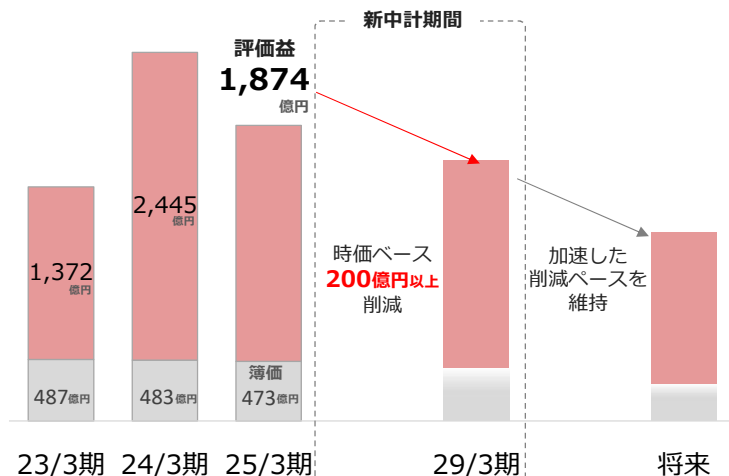


※バーゼルⅢ最終化（完全実施）により2028年3月末に適用される規制に
もとづく影響を加味

社会価値・経済価値の創出を実現する
リスクアセットの積極的な積み上げ

政策保有株式は計画的に削減し、発生する売却益は戦略的投資に充当することで企業価値向上をめざす

政策保有株式（上場株式）



DX・人的資本へ戦略的投資

目標

政策保有株式は時価ベースで**200億円以上**の削減を計画的に行う

管理

銀行取引等を継続している場合は売却合意先であっても政策保有株式として管理

保有意義

地域経済の発展や当行の企業価値向上に資するかを判断

売却

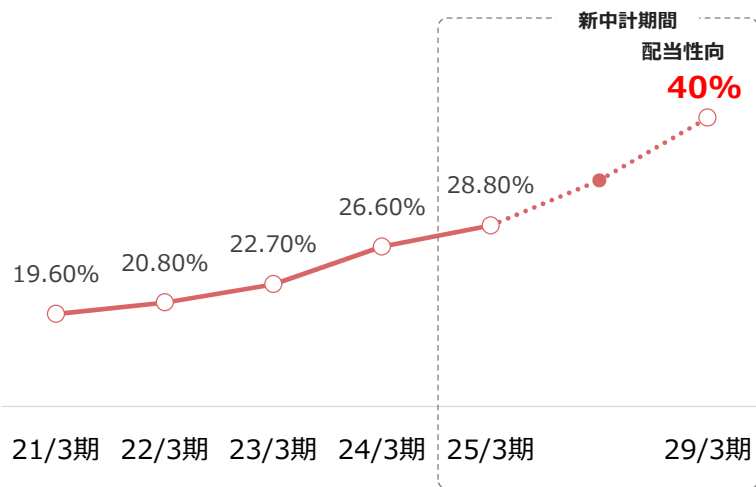
売却にあたっては運用効率の観点から優先順位をつける

売却益

売却益は企業価値向上のための戦略的投資に活用する

株主還元は長期安定配当を基本としながらも配当性向40%をめざし、機動的な自己株取得も検討する

株主還元



株主還元のさらなる充実

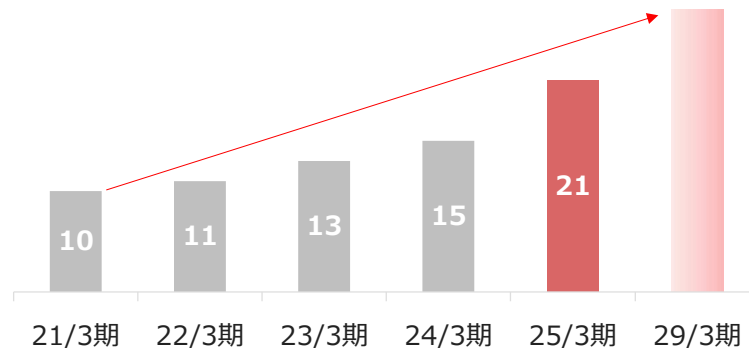
目標

長期安定配当を基本としながらも**配当性向40%**をめざす

自己株取得

自己株取得は株価を含めた市場環境を踏まえ機動的に実施を検討

■ 1株当たり配当金推移 (円)



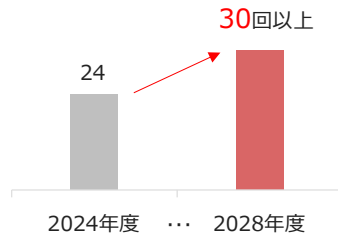
サステナブル経営への取組みとその発信、外部評価機関への対応の高度化をめざす。ステークホルダーとの情報の非対称性を解消する機会を多く創出することで、当行の経営戦略の理解を促進する。

PER向上に向けた取組み

ROEの向上による期待利益の向上が王道。これに加え、サステナブル経営への取組みの発信と外部評価機関への対応を丁寧に実施し、情報の非対称性を解消する機会を多く創出することで、当行の経営戦略への理解を促す。

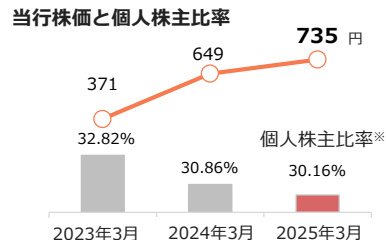
✓ IR・SRの強化

- 年間30件のIR・SRの開催をめざす。幅広い株主とのディスカッションを通じて、投資家と課題認識を共有する。
- IR・SRイベントの充実により実効性を高める取組みを検討する。



✓ 個人株主向けIRイベントの開催

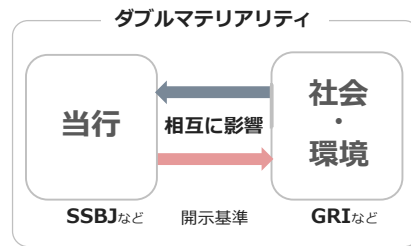
- 個人向けIRイベントなどの開催により、地域にお住まいの方に限らず、幅広い投資家のみなさまに百五銀行を知っていただく機会を創出する。



※単元未満株式は除く

✓ サステナビリティ情報の開示

- 日本サステナビリティ基準委員会 (SSBJ) 基準での開示の進展を見据えた対応を推進する。
- 「社会・環境」と企業の双方向の影響を勘案する「ダブルマテリアリティ」の考え方を取り入れる。



✓ 地域課題解決に向けた活動

地域課題解決への取組み

➤ サステナビリティ推進部の新設 ➤ ESG分野の課題特定と解決

短期的な収益目標に捉われず、社会課題の解決を通じた「社会価値」と「中長期的な収益」の創出をめざす部署を新設する。

ESG評価機関の活用

ESG評価機関への対応を通じて、当行グループ全体の取り組みを振り返り、めざす姿との差分を把握する。